

知識は 旅をする



館内のご案内（２）壁面リーフ「知識は旅をする」

千葉県立東部図書館だより

2013年9月

第47号

■トピックス

▼ライフプラン講座のご案内

「シニア世代のお金のはなしーあなたの家計も貯蓄世帯に変身！ー」

講師:佐藤陽子 氏

(千葉県金融広報委員会金融広報アドバイザー)

10月19日(土) 13:30～15:30

(開場13:00)

会場:3階研修室

定員50名※申込受付中(来館・電話)

▼展示コーナー

「本(小説)の舞台を旅してみよう！」

現在展示中～10月17日(木)

今回は、47都道府県の各地が舞台となっている小説を集めました。小説の舞台を旅してみてはいかがでしょうか。

▼歴史講座のご案内

「水郷を旅した人々ー文人・文豪の水郷遊歴と利根川水運ー」

講師:内田龍哉 氏

(千葉県立中央博物館 主席研究員兼歴史学研究科長)

11月30日(土) 13:30～15:30

(開場13:00)

会場:3階研修室

定員70名※10/16～申込受付(来館・電話)

▼名作映画鑑賞会のご案内

「黄色いリボン」1949年 アメリカ

監督:ジョン・フォード

主演:ジョン・ウェイン

9月21日(土) 13:30～(104分)

(開場13:15)

会場:3階研修室

定員60名 ※予約不要

ホームページURL <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>

携帯電話サイトURL <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/m/>

携帯電話機のQRコードリーダーでアクセスできます→



大江戸食べもの歳時記

永山 久夫／著

新潮社(新潮文庫)

2013 [38381/149]



和食ブームと言われる昨今、「スシ」「テンプラ」「トーフ」は世界のどこでも知られるおいしいヘルシーフードとなっています。その食文化が普及したのは江戸時代。本書では、おいしいだけではなく、それらをどう食べるか、いつ食べるかなど江戸っ子の「粋」なフードスタイルを、その時代の川柳とともにわかりやすく描いています。

借金をしてまでも「初」ものにありつこうとする江戸っ子。「初がつを銭とからしで二度なみだ」この川柳からも「食」へのこだわりがうかがえるのではないのでしょうか。ぜひ、江戸っ子の粋な食生活、食文化を堪能してください。

図書館ぶらり散歩 (35)

日本の食文化を 読む

下級武士の食日記 幕末单身赴任

青木 直己／著

日本放送出版協会

2005 [38381/98]



参勤交代によって全国から人と食が集まった江戸の町。近郊農業や江戸前の魚が人々の台所を支えており、千葉の名産品としては醤油をはじめ鮎子のさつまいもや流山のみりんなども有名でした。

和歌山からやってきた勤番侍・酒井伴四郎は、安い豆腐やいわしを買って自炊で節約しつつ、節句を祝っては酒を飲み、名所見物に出掛けては様々な食べ物を楽しまします。幕末武士の意外と豊かな食生活を、伴四郎の江戸日記で追ってみませんか。



戦国の食術 勝つための食の極意

永山 久夫／著

学研パブリッシング

2011 [38381/136]



苛酷な時代を生きた戦国時代の武将たちは、どんな食事をして戦に挑んでいたのでしょうか。徳川家康は生涯の主食を体に良い「麦めし」と決め、実行していたそうです。

この本で『食欲は生命力や野心と比例している。食術のうまい武将ほど、実は成功している』というように、食事は勝つためには必要不可欠なものです。おろそかにすると、勝てるものも勝てないのです。

成功者として生き抜くために、戦国時代の天下人や、長生きをした武将たちの食事を参考にしてみたいかがでしょうか。

日本の食はどう変わってきたか

神の食事から魚肉ソーセージまで

原田 信男／著 角川学芸出版

2013 [38381/148]

みなさんは“魚肉ソーセージ”をご存じでしょうか?“魚肉ソーセージ”は、獣肉を食べない習慣の中から考え出された“蒲鉾”の伝統的な技術を利用して、西洋のソーセージを真似て生みだされたものです。その発展系として“カニカマ”という世界的な大ヒット商品も生まれました。本書は豊富な文献の裏付けを元に、日本の食の習慣がどのように形作られていったのか考察しています。巻末に『参考文献・典拠文献一覧』が17ページにわたり掲載されていて、『食の歴史』の資料目録としても利用できます。

※[]内は資料の請求記号です。

「銚子生まれの国木田独歩」

平成25年6月15日(土)13:30～15:30 場所:3階 研修室

本年は、『武蔵野』を執筆した明治の文豪、国木田独歩についての講演を開催し、54名の方が聴講されました。

講師には、詩集や評論等を執筆され、現在も「千葉日報」に「房総の作家」を連載されている日本文藝家協会会員の中谷順子先生をお招きしました。

国木田独歩は、銚子の生まれであり、平成20年には独歩百年忌記念事業として駅前に記念碑が建立されました。



講演の前半は、独歩の生い立ち、独歩の生まれた家(銚子)や取り巻く人々についてのお話でした。独歩の父といわれる国木田専八が、播州竜野藩(姫路近く)の藩船・竜野丸に乗船中、銚子沖で遭難し、助けられて旅館「吉野屋」で傷療養していました。そこで働いていた母、淡路まんと恋仲になり独歩が生まれたとされています。しかし、青年へと成長した独歩は、父親は専八ではなく、まんの前夫の権次郎(雅治郎)の子で連れ子ではないかという出生の秘密を知ってしまいます。このような独歩の生い立ちや独歩にまつわる家族や親戚、当時の銚子の様子も詳しく知ることができました。

後半は、独歩の作品と銚子に関するお話でした。銚子を離れた独歩が青年となり、徒歩で19年ぶりに帰銚。立ち寄った東金を描いた「東金の旅客」(のち改題「驟雨」)。その後執筆される「忘れ得ぬ人々」「源叔父」などの名作について中谷先生は「人物の設定や舞台などは他の地になっているが、情景描写の銚子との類似性などからみて、懐かしい銚子をそれとなく描きたかったのではないか。銚子と明記できないところに出生への苦悩があるのではないか」とお話されました。また、田山花袋、柳田国男との交流があり、花袋、国男も銚子を訪れたこともあったそうです。花袋の作品にも独歩のことや銚子を描いた作品があり深く交流があったことがうかがえました。



休憩時には、独歩や中谷先生の資料紹介のコーナーで本を手にする姿が多く見られました。また、「銚子独歩の会」の会員の方にも参加いただき、「独歩の命日である1週間後の6月23日には、碑前祭を行うので海鹿島でお会いしましょう」とPRもあり、盛会のうちに終了しました。「独歩のいろいろがわかり楽しかった」「とてもわかりやすかった」「独歩の一生についてよくわかった」「講演を聞いて、独歩の作品が読みたくなった」など参加者の声が多数寄せられ、大変好評でした。

今回の講演のもととなった中谷先生の著書『房総を描いた作家たち4』をはじめ、先生の詩集や評論集は千葉県立図書館に所蔵がございます。また、国木田独歩に関する資料も多数ございますので、詳しくはホームページをご覧ください。また、カウンターにお問い合わせください。

〈特集〉

わたしも図書館員

ワクワクドキドキ?

インターンシップ

この夏も、東部図書館には近隣の児童・生徒や大学生、学校職員の皆さんが職場体験にみえました。今号では、千葉県立東総工業高等学校2年生の皆さんの、インターンシップの様子をご紹介します。

7月24日～7月26日	銚子市立第三中学校	1名
	旭市立海上中学校	2名
	千葉県立東総工業高校	3名
7月30日	匝瑳市立豊栄小学校	1名
7月31日～8月2日	銚子市立第六中学校	1名
	銚子市立第七中学校	1名
	旭市立干潟中学校	3名
8月7日～8月9日	銚子市立第一中学校	2名
	旭市立旭第一中学校	3名
8月21日～8月23日	銚子市立銚子中学校	3名
8月22日～8月23日	匝瑳市立八日市場第二中学校	2名
8月28日～8月30日	銚子市立第五中学校	3名



カウンターでの接遇

東部図書館には4つの課があり、それぞれが役割分担をして仕事をしています。3日間という短い期間ですが、生徒の皆さんは読書推進課・資料管理課・図書館連携課と3つの課をまわり、図書館全体の仕事を体験しました。

どんな語で検索すればいい？



作業の方法を教わりながら…



利用者さんの目に留まるといいな！



最終日午後は恒例の「指令に挑戦！図書館探偵」に挑みました。県立図書館のホームページから、探している資料の検索をします。本が開架で見つかり、知りたかった事柄を調査し終えた皆さんには、笑顔があふれていました。今回身につけた調べ方を今後も活用し、真の「図書館探偵」を目指してください！

探偵たちに課された「指令」にはこんな難問が……

「キネマ旬報 2012年8月上旬号」がなるべく早く読みたい。近くの図書館で持っているところを探してね。
〈ヒント〉「新聞・雑誌総合目録」で検索しよう。「なるべく早く」「近くの図書館で」という条件に注意。



同期間に実習を行った中学生の皆と一緒に

- 県立図書館の資料は、市町村立図書館などを通じて利用することもできます。お近くの図書館、あるいは公民館図書室等の読書施設にご相談ください。
- 県立図書館では、千葉県に関する資料を収集しています。グループ・職場などで資料を発行されたときには、情報をお寄せください。

編集長の独り言

今年度から、名作映画鑑賞会は奇数月の第3土曜日の開催となりました。その代わりに、これから読書の秋に向けて、皆様の関心のあるテーマで各種講座を企画しております。是非、ご参加ください。

編集・発行：千葉県立東部図書館
〒289-2521

千葉県旭市ハの349
TEL0479-62-7070

URL：http://www.library.pref.chiba.lg.jp/